

平成29年度 第2回 川崎市小学校教育課程研究会

分科会名	会場	川崎市総合教育センター	
特別活動	助言者	川崎市立小学校特別活動研究会会長	名取 光彦
		川崎市総合教育センター 指導主事	高橋 徹
	提案者	川崎市立岡上小学校	教諭 長谷川 絵美
	司会者	川崎市立藤崎小学校	教諭 山口 紗代
	記録者	川崎市立東菅小学校	教諭 桜井 謙一
平成29年8月22日(火)	世話人	川崎市立高津小学校	教諭 唐牛 彩希
	出席者数	130名	

1. 提案の概要

学級活動でよりよい生活や人間関係を築く力を育てる ～子どもたちが輝ける学級活動を目指して～

○新学習指導要領では、特別活動で育成すべき資質・能力の視点として「人間関係形成」「自己実現」「社会参画」が挙げられている。さらに、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」への学習過程の例として次のように示されている。

①問題の発見・確認 ②解決方法の話合い ③解決方法の決定 ④決めたことの実践 ⑤ふり返し

このような一連の活動を通してよりよい生活づくりに参画する態度を養っていくことができる。

○**実践**①6年生ありがとう集会をしよう(7月)②みんなが元気にすごせるために運動しよう集会を開こう(2月)
・4月から給食や掃除などの6年生との交流が始まった。6月下旬になり、交流が終わってしまうことを伝えると「6年生が来なくなるのはさびしい。」「お世話になったからお礼がしたい。」などの声が聞こえた。
1年生という学級活動の入門期や学級活動に慣れていない実態においては子どものつぶやきや発言を議題につなげる教師の支援がとても重要である。

・学級会の流れは**①出し合う ②比べ合う ③まとめる**という流れである。②の比べ合う段階では、楽しそうだから賛成という意見もあったが、話合いのめあてを意識した発言が出るように促した。③のまとめる段階では、反対意見に対して解決意見が出たり、複数の意見を合体させたりする様子も見られた。不安に思う一人の子の気持ちをみんなで考え、知恵を絞って意見を出したり、友だちが自分の思いに寄り添い、大切にしてくれたと実感したりするなどの体験を通して、よりよい人間関係を築くことができた。

・集会活動に向け役割分担を行い、自分の役割を果たすことができたという達成感を感じるようにした。学級会で話し合ったことを実践していくことが楽しいと感じるようになった子どもたちは次々と議題を見つけるようになっていった。学級会の話合いと集会活動とを一連の活動として捉えていくことが大切である。

○**まとめ** 子どもたちの変容

① 自分たちの学級の課題を見つけられるようになった。

→決まったことを実践することで学級目標に近づくという視点で提案理由を考えた。その結果、どんな議題が望ましいのかが見えてきた。

② 学習過程の中で最後まで提案理由やめあてを意識して取り組むことができるようになった。

→学級会の振り返りでは学級会のことだけでなく集会活動に対する期待や思いを表現する子が増えた。つまり、学級活動の学習が一連の活動であるとしてとらえられるようになった。

③ 話合いの中で、自分の思いを伝えられる子が増え、お互いにその思いに寄り添う姿勢が広がった。

→実践1と比べて実践2ではほとんどの児童が発言をするようになった。これは、学級会において心配意見を解決しようとしながら取り組んできた経験の積み重ねの結果である。

○**指導上の成果**

学級会を通してみんなで取り組むよさを学んだので各教科の中でも課題に対して活発に話し合い、主体的に取り組むようになった。学級会に取り組むことが各教科の学習においても大変効果的である。

2. 研究協議の概要

○7月という入門期の子どもたちにどのように関わってきたか？

→幼稚園などで身の回りの問題を解決してきた子もいる。1年生だからできないということはない。どうしていけばよいか先生から投げかけていくことが大切である。できることから始め、役割を少しずつ増やした。

○集会等の実践のために1時間話し合い活動を設ける必要があるのだろうか？少人数で柔軟性をもって話し合いをしていく必要もあるのでは？

→みんなで話し合う苦しみもある。しかし、これから社会に出る子どもたちにとって多くの人と関わっていく中で、多様な意見を生かし、折り合いをつけながら合意形成を図る経験は必要である。

3. 指導講評

子どもたちの中にも人前で話すことが苦手である子もいるはずである。一人一人の気持ちを理解していくことがまず教師にとっては重要な心構えである。学級会ノートに書いてある意見等に赤線を引いたり、コメントを入れたりすると子どもにとってそのことが大きな自信につながり、「発言してみよう。」という気持ちになるはずである。発言しやすい雰囲気を作ることが大切である。1年生のうちから子どもたちが発言しやすい環境があったらどうだろうか？「友だちに分かってもらえる。」という気持ちをもって生活するようにしたい。低学年からの積み重ねは非常に大切であり、高学年になった時に大きな成果を得られるのではないかな。

集会における振り返りを大切にしてほしい。子どもたちが書いた振り返りシートをよく見て、コメントを入れていくとよい。また、「次にこんなことをしてみたい。」というような新しい考えを書く子がいるかもしれないのでそれを次の活動につなげていってほしい。

4. 伝達講習

新学習指導要領 改訂のポイント

○今まで以上に「何ができるようになるか」ということを意識して取り組む

○学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設された。

学びに向かう力・人間性等
どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか
知識・技能
何を理解しているか何ができるか
思考力・判断力・表現力
理解していること・できることを
どう使うか

新(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 合意形成

- ア：学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ：学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ：学校における多様な集団の生活の向上

現行の学級活動(2)が新学習指導要領では学級活動(2)(3)に再編成される。

(現行) 学級活動(2)

- ア：希望や目標
- イ：基本的な生活習慣
- ウ：望ましい人間関係
- エ：清掃 働く意義
- オ：学校図書館
- カ：健康安全
- キ：食育

新学習指導要領

学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア：基本的な生活習慣の形成
- イ：よりよい人間関係の形成
- ウ：心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- エ：食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

意思決定

学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア：現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- イ：社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
- ウ：主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

意思決定

特別活動で育成すべき資質・能力の視点

自己実現	自分づくり
人間関係形成	仲間づくり
社会参画	生活づくり

自分たちの学級・学校は自分たちでつくるという意識

学習指導要領総則に「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」と示された。学級活動(3)だけでなく特別活動全ての活動、学校行事でキャリア教育の充実を図っていく。

29年度中に各学校で取り組むべきこと

キャリアノートの活用を！

特別活動は平成30年度より新学習指導要領に移行するので今年度中に準備を進める。

①育てたい力資質・能力を明確化した特別活動全体計画、各活動における年間指導計画の作成

②学級活動(1)(2)(3)をバランスよく配分する

川崎市立小学校特別活動研究会のホームページにて現行の全体計画、年間指導計画が掲載されている。

平成30年度5月総会に各学校の「全体計画」の提出を予定

